

## いちご

子どもたちに大人気の  
吾平町黒羽子地区のいちご



60aのいちごハウスでは、電照栽培も行われています。



ハウス内に置かれたミツバチの巣箱



せっせと受粉の手伝いをしているミツバチ

### データ

産出額(千万円)		産出額(千万円)	
①志布志市	73	⑤出水市	18
②日置市	34	⑥霧島市	14
③さつま町	23	⑦鹿屋市	9
④薩摩川内市	21	⑧指宿市	9

出典：九州農政局鹿児島農政事務所鹿屋統計・情報センター(平成18年12月)

毎年クリスマス時期になると需要が高まる「いちご」は、本来は初夏(5〜6月)が旬のバラ科の作物ですが、鹿屋市では12月から5月にかけて2haでハウス栽培されています。

このうち吾平町黒羽子地区にある「黒羽子観光農園」では、3戸の生産者が60aで観光農園を開園しており、例年この時期になると周辺には、甘い「いちご」の香りが漂っています。

主に生産されている品種は、酸味が少なく果実の芳香が高く、甘味の強い「とよのか」と、その「とよのか」を親に持ち、特徴を引き継いでさらに果実の形がととのった「さがほのか」の2品種で、特に「とよのか」は品種開発競争の激しい「いちご」の中で、誕生か

## Interview



美味しい「いちご」作りに挑戦し続けます

黒羽子観光農園  
会長 土橋 俊男さん(62歳)  
(吾平町上名)

黒羽子観光農園のいちごの栽培面積は60aで、栽培時期は12月中旬から5月までです。

昨年の11月から20aのハウスにミツバチを1,200匹放して、受粉の手伝いをしてもらっています。私はいちごの栽培をはじめから13年目になりますが、年々「安全・安心な食」への消費者ニーズが高まってきていますし、かといって完全無農薬での栽培技術は確立されていないのが現状です。そんな中、8年前からいちごの大敵であるナミハダニの天敵となるチリカブダリダニをオランダから空輸していちごを守るなど、減農薬栽培を行ってきました。

今後も、減農薬栽培で絶え間なくコンスタントに収量をあげて、いかに美味しい「いちご」をつくるか挑戦を続けていきます。

ら20年以上が経過した今も多くの産地で栽培されており、根強い人気を誇っています。

また、「いちご」はビタミンCがレモンの約1.6倍と豊富で、5〜6粒ほど食べれば1日に必要なビタミンC 50mgが摂取できます。

ほかに、カリウムやペクチン、アントシアニン、クエン酸などが含まれているほか、近年ではキシリトールが含まれていることも判り、食後に「いちご」を食べてから歯磨きすると、虫歯を防ぐ効果が高まるそうです。

美味しい「いちご」を見分けるコツは、ヘタの周辺まで赤く着色しているもので、果実にツヤがあり、表面のつぶつぶがはっきりしているものをお勧めです。

黒羽子観光農園では、5月上旬まで「いちご狩り」を楽しむことができます。今年のいちごは例年以上に甘みがのついているのとことです。

親子や友人などと「いちご狩り」に出かけてみてはいかがでしょうかですか。

市農林水産課  
☎0994・31・1117

### 【問い合わせ】

- 開園時間 9時〜17時
- 入園料 無料
- 販売価格 1kg当り1,600円